

## 地域の教育力が支える 安全・安心なまちづくり

生徒指導主事 有澤 義一

生徒指導主事という仕事から、「〇〇小学校の児童が若い男性に声を掛けられ、車に連れ込まれそうになった。」「例年より県内の小学生の交通事故が多発しているの、指導の徹底をお願いします。」といった事件や事故の情報をよく耳にします。ところが、私が本校に赴任してからの2年半余り、東五位校区で事件や事故が起こったという情報は、ほとんど聞いたことがありません。その理由は言うまでもなく、自治会や防犯組合、青少年補導委員会、高岡西交番等、各種団体の皆様の見守りやパトロールのおかげに他なりません。

とはいえ、わんぱく盛りの小学生です。危険な遊びをしたり、周囲の方たちに迷惑をおかけしたりすることがあり、学校に電話がかかってくるのが時折あります。先日も、「子供たちが、危ない遊びをするので注意しているが、一向にやめようとしないのですぐに来てほしい。」という連絡がありました。私が現場に駆けつけてお話を伺うと、「子供たちがフジ棚に上って危ないし、住宅近くでボール遊びをするので窓ガラスがわれないかと心配で注意しているが、全く言うことを聞かない。」とのことでした。早速子供たちに注意し、二度と危険な遊びはしないことを約束させました。

学校では、日頃から危険な遊びや迷惑をかける遊びをしないことを繰り返し指導しています。しかしながら、放課後や休日は、家庭や学校の目が届きにくいいため、子供たちは誘惑にかられてついついルールを破ってしまうことがあります。そんな時、地域の方々が声を掛けてくださることで、子供たちの事故や問題を未然に防ぐことができます。「せっかく注意しても、最近の子供はなかなか素直に聞いてくれない。」という経験をされた方もおられるでしょう。そんな時は、是非学校にご一報ください。私たち教員も誠意をもって対応させていただきます。

以前、ある都市で犯罪が多発した時、市民総出でまちの落書きを消したところ、犯罪件数が劇的に減少したそうです。安心・安全なまちを築くためには、危険なことや悪い行いが許されない環境づくりが不可欠です。東五位っ子が正しい判断力や強い自己抑止力を身に付け、心身共に健全に成長することができますように、変わらぬお力添えをよろしくお願い申し上げます。



### 読書王に、ぼく、わたしはなる！

図書主任 寺岡 佑香

大人気の某漫画の決め台詞をもじって、図書委員会では、11月を「目指せ！読書王月間」としました。図書委員が、『読書王決定戦』や、『読み聞かせ』などの企画をしました。この企画を通して、本を読むのが好きな子だけでなく、苦手な子にとっても本に親しむ機会になってほしいと考えています。

さて、みなさんは、どんな本を選ばれますか？楽しい物語の本、自分の好きな生き物や乗り物が出ている本、絵が素敵な本、有名な映画の本、本屋や図書館で目を引いた本、おすすめの本、今流行の芥川賞作品…どの本にしようかなと選ぶのはわくわくするものです。

低学年の子供たちは、スタディ・メイトの高島先生に様々な本の読み聞かせをしてもらい、大笑いしたり感動したりしています。そして、その読み聞かせを聞いて気に入った本を借りてきています。また、中学年や高学年では、友達同士や図書館司書の北川先生、本に詳しい先生と情報交換をして本を選ぶ姿がよく見られます。

たくさん本があるだけに、どの本を読んだらよいか分からなくなることもあります。そんなときのために、「この本おもしろかったよ」「この本好き」と子供から子供へ、子供から大人へ、大人から子供へ、大人から大人へと、本の素晴らしさを発信していくことで、人と本が繋がっていくのだと思います。

